木田市長の ど～んとコミュニケーション

真珠のように輝く
まちづくりのために

vol.34

御木本幸吉生誕150周年

今年は、御木本幸吉生誕１５０周年の年です。

御木本幸吉翁は、鳥羽城を築いた九鬼嘉隆と並ぶ鳥羽市の偉人で、ＭＩＫＩＭＯＴＯ（ミキモト）の店は世界中の主要都市にあります。ニューヨークや香港、パリなど世界有数の街を訪れたときに、ミキモトの名がついた店を見つけると、鳥羽市出身のわたしたちとしては何とも言えず誇らしい気持ちを味わうとともに感動を覚えます。

幸吉は、安政５年に「阿波幸」という名のうどん屋の長男として鳥羽で生まれました。

当時は、養殖真珠は存在せず、自然にできた天然真珠だけが流通しており、大変高価な値段で取引されていました。明治21年における三重県の真珠生産は、全体でわずか５００ｇであったということからも、その値打ちがわかると思います。

幸吉は東京、横浜への旅に出掛けたときに真珠取引の高価さに驚き、真珠養殖を目指したと言われています。その後、多大の努力を重ね、明治26年に相島（現在の真珠島）で真珠の養殖に成功しました。

明治38年、明治天皇が伊勢神宮へ行幸されたときに、天皇の御前で「世界中の女性の首を真珠でしめてごらんにいれます」と言った幸吉の言葉は有名です。また、世界の発明王「エジソン」は、ニューヨークで幸吉に会ったときに、「ダイヤモンドと真珠は、わたしにもできなかった」と言って讃えたといわれています。

本年度に、御木本幸吉生誕１５０周年をお祝いする記念事業を計画しています。

この事業を通じて、幸吉の人間性を明らかにし、現代に生きるわたしたちが彼から多くのことを学ぶことができれば、大変有意義なことであると思います。

記念事業の開催に向けて、企画委員会が立ち上げられ、さまざまなアイデアが出されつつあります。今後は、この案をもとに実行委員会で最終案が決定され、実行に移されていきます。

幸吉は、「世界の真珠王」と呼ばれ、本市の名誉市民の称号を受けていますが、若くして最愛の妻を失うなど、幸吉が歩んだ人生は、苦境と波乱に富んだものでした。そうした苦難を乗り越え、信念を貫いた幸吉は、「わたしには手帳などいらぬ」などの数多くの言葉を残しています。

記念事業を通して、わがまちが生んだ真珠王が鳥羽市民によって、より身近な存在となることを期待しています。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.73

インターネットや携帯電話のトラブルからこどもを守るために

インターネットや携帯電話は、手軽に情報のやりとりをしたり、調べたり、コミュニケーションの手段として大変便利な道具です。しかし、その使い方を誤ると、犯罪被害にあったり、他人に迷惑をかけたりしてしまうことがあります。インターネットや携帯電話を利用するときの基本的なルールや、注意することなどをこどもと話し合い、次のことについて確認してみてはいかがでしょうか。

1、友だちの悪口などを書き込んだりしていないか。
2、自分や友だちのメールアドレスを簡単に教えていないか。
3、有害サイトを利用していないか。
4、迷惑メールや、知らない人へメールを送っていないか。
5、公共の場所では、周囲の人に迷惑にならないように、決められたルール（病院などでは携帯電話の電源を切っておくなど）を守っているか。
6、自転車に乗りながら携帯電話を使用していないか。
7、携帯電話の貸し借りはしていないか。
8、夜遅くまで利用していないか。

インターネットや携帯電話をこどもに持たせるには「何のために使用するのか」「必要外に使用しないこと」「料金のことを考えて使用すること」など、こどもと十分に話し合い、月々の使用限度額などを決めて、そのルールに従って使うことをこどもと約束しましょう。

（青少年の健全育成ハンドブックより抜粋しました）